

2019年12月9日 第46回研究報告会
宿利会長 開会挨拶

一般財団法人運輸総合研究所会長の宿利正史です。本日は年末のお忙しい時期にもかかわらず、大勢の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございます。

今年も余すところ僅かとなりましたが、私どもの研究所は、この一年間一貫して、「学術研究と実務的要請の橋渡し」という設立の原点を踏まえて、①「世の中の役に立つ」、「使いものになる」成果を実現することを目指し、②そのために、真にニーズが高い分野に活動を集中することに心掛け、同時に、③国際的な活動や海外との連携の強化に取り組んでおります。

本日の研究報告会は、そのような私どもの日頃の活動の一端をご披露すべく、特に、先程申し上げた「国際的な活動や海外との連携の強化」を意識してプログラムを組んでおります。

当研究所は、これまで、ワシントン D.C.にありますワシントン国際問題研究所を拠点として、主として米国、北米を対象に様々な国際的な活動を行ってまいりました。

しかしながら、近年では、ASEAN 諸国やインドが急速な経済成長を遂げる一方で、都市交通や幹線交通インフラの不備、交通渋滞、脆弱な物流体系、深刻な環境汚染などの重要な課題が顕在化しております。当研究所としても、我が国と縁の深いこれらの国々の課題解決に対しての一層の貢献が求められており、本年初よりこれらの地域に目を向けた活動に力を入れつつあるところです。

本年後半に行った活動からいくつかご紹介しますと、7月には、ASEAN からベトナム、インドネシア、フィリピンの運輸当局次官又は次官級の代表者をお招きし、東京で、「変貌しつつある ASEAN の大都市交通」と題して国際セミナーを開催しました。

9月には、スリランカのコロンボで開催された第13回アジア交通学会（EASTS）において、公共交通及びモビリティの分野における優秀論文を表彰する運輸総合研究所特別賞（JTTRI Special Award）を新設し、第1回の表彰を現地にて行いました。

11月には、タイのアーコム前運輸大臣をお招きし、「交通分野における日・タイ関係の現状と展望」というタイトルで特別講演と対談を行っていただきました。

また、来年1月から2月にかけては、タイのバンコク、フィリピンのマニラ、インドネシアのジャカルタの3都市で、鉄道整備と沿線開発をテーマにセミナーを開催し、加えてバンコクでは、日ASEAN交通連携プロジェクトの一環として、モバイルビッグデータの運輸交通分野への活用をテーマに、ASEAN10カ国及びアセアン事務局を対象とするセミナーを開催する予定です。

さらに、今後、ASEAN・インド地域における当研究所の活動を充実させるために、来年にはタイのバンコクに活動の拠点を設置する予定で準備を進めているところです。

そのような中、本日は、特別講演の講師として、アジアの政治および国際関係に大変造詣の深い前政策研究大学院大学学長で、現在熊本県立大学理事長をされている白石隆先生にお越しいただきます。

白石先生には、後ほど、「米中『新冷戦』とアジア」というタイトルで、ご講演いただきます。

具体的には、冷戦終焉以降の、グローバル化の進展、世界的な富と力の分布の急速な変化、先進国及び新興国における国内政治経済の大きな構造変化といった長期の趨勢を踏まえ、米中「新冷戦」の主要争点を分析するとともに、これがアジア諸国の政治経済にどのような影響をもたらすと予想されるか、特に「膨らむ期待」と債務問題を中心にお話をいただきます。

そして、講演の後には、アジアの交通運輸分野に大変造詣の深い政策研究大学院大学政策研究センター所長の森地茂先生にご登壇いただき、白石先生との間で対談をしていただきます。

当研究所はもちろんのこと、アジアとのかかわりの中で、政策や、事業や、研究に取り組んでおられる多くの皆様にとりましても、「米中『新冷戦』とアジア」の現状と今後の課題、とりわけ、日本はこれからどう対処すべきかについて、できる限り冷静かつ客観的に認識しておくことが極めて重要だと思います。私自身も本日の講演と対談を大変楽しみにしております。

最後に、本日の研究報告会の開催については、日本財団の特別の支援を受けて実施するものであることを申し添えます。当研究所といたしましては、今後とも、皆様のご期待に応えるべく努力を重ねてまいりますので、引き続き、ご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

改めまして、多くの皆様方のご出席に感謝を申し上げ、私の挨拶といたします。

(以上)